



岩五だより



令和7年3月17日

「3月に思うこと～卒業のとき～」

3月に入り、少し暖かく感じる日も出てまいりました。小岩五中関係者の皆様方におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。今年度も最終月となり、中学校としては最も大切な儀式のひとつである卒業式を目前に控え、卒業生はもちろん在校生と教職員が協力してその準備に入っています。大切な卒業生のために、小岩第五中学校として精一杯努力してまいります。

義務教育の9年間の総仕上げである、中学校の卒業式は、本人だけでなくご家庭の皆様にとっても感慨もひとしおであると思います。人類は、生理的早産で、この世に生をうけます。他の野生動物に比べて、ひとりでは生きていくのが難しい状態で生まれてきます。今日までご家庭の皆様のお力が無かったならばここまでこられませんでした。どうか卒業生の皆さんは、自分と関わってくれた全ての人に感謝の心をもてるといいなと思います。今の自分があるのは、誰かのお世話を受けたことによる賜物なのです。その心をもって卒業式に臨んでください。

さて、前回の今年度最後の全校朝礼では、あたり前のものは、何も無いということを伝えたくて、80年前の3月10日東京大空襲について少し話しました。前日に当時の空襲体験をされた方のお話をお伺いする機会があり、是非皆さんに感じたことを伝えようと思いました。3月10日の東京大空襲は、季節的に風が強く吹き、木造家屋が密集する東京下町を焼き尽くす目的で、日本向けに効果が高い油脂が詰められた焼夷弾によって無差別に一般市民を巻き込む形で、深夜に低空から攻撃されました。雨のように焼夷弾が落とされ、その空襲で東京下町一帯は、焦土と化し10万人以上の尊い生命が奪われました。その空襲で、ご両親とご兄弟を亡くされ、たまたま運良く生き残られた方のお話でした。大切なご家族を亡くされただけでも大変なことでしたが、その後戦争孤児となり筆舌に尽くし難い戦後を生きてこられました。「あの戦争や空襲さえ無かったらと80年たった今でも思います。この世に戦争ほど憎いものはありません。あたり前と思っていた家族や生活、日常の風景は、一瞬にして吹き飛ぶこともある。実はとてつもなく貴重で、何ひとつあたり前のものはないということを若い人たちに伝えたいです。」とおっしゃっていたことがとても印象に残りました。もちろん、私自身も直接戦争や空襲を経験してはいませんが、心に深く迫ってくるお話でした。小岩五中生は、自分の日常生活のなかのあたり前だと思っていることの大切さに気づける人であって欲しいと思います。先の太平洋戦争終戦から今年で80年になりますが、先人たちの多大なる犠牲と苦労のうえに、今の世があります。ありがたいことに、この80年間は、他国と戦争状態にはありません。しかし、世界を見渡せば不穏な動きを感じます。実際、他国同士の争いによって、多くの犠牲者が出ていることは承知の事実です。体験談を語っていただいた方のような思いをする人が、また多く出ているということです。どうすれば、世界が平和でいられるかという問題は、簡単に答えの出ない果てしないテーマです。では、我々中学校では何ができるかというと、理性的に物事を深く考え本質に迫っていける思考力を身につける準備のために、学校生活をあたり前と思わずに、大切にしていこうとから始めたいと思います。特に、一番時間をかけている日々の授業に集中していくことが大切です。今の皆さんの年代は、みずみずしい感性と吸収力をもち合わせています。その時に、先生方の話を傾聴(相手の気持ちを考えて聞く)していくことで深く考える力の基礎が養われていきます。そして、上級学校や社会に出たときにきっと役立ちます。年度末に際し、日々の授業をあたり前と考えず大切にできる小岩五中生を全学年で目指していきましょう。

今年度も、小岩五中に関わってくださった皆様には本校の教育活動全般に対し、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。次年度も本校は、教職員が協力しながら生徒の心情を考え、情報共有を確実にして教育活動に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。本学校だよりを最後までお読みいただきありがとうございました。

江戸川区立小岩第五中学校
校長 前本 大智